D 2

女子学生の晴れ着に関する意識調査（第２報）
和服の晴れ着に対する評価

奈良女大家政　中川早苗　樋泉淑子　聖母女学院短大　○長井満里子

目的　フォーマルな場面で着用嗜好の高い振袖、袴姿、ニューキモノ、浴衣に対する評価とその基準を明らかにするために実用性、社会性、審美性、ファッション性の側面から測定を行い検討した。

方法　調査の概要は第１報の通りである。本報では、振袖、袴姿、ニューキモノ、浴衣に対する評価を測定するための評価項目を20項目設定し４段階で評価させた。データの分析には各々の単純集計、振袖派、ニューキモノ派、ドレス派の３タイプとのクロス集計、および評価の基準を明らかにするために因子分析の手法を用いた。

結果　単純集計の結果、振袖は「礼装用としてふさわしい」、袴姿は「レトロ気分を味わえる」、ニューキモノは「目立つのに充分の要素を持っている」「自由な雰囲気で着れる」、浴衣は「年令にこだわらずに着れる」などに評価が高い。またいずれも「普段と違う自分を演出できる」と評価しており、これらの和服をフォーマルな場面にふさわしい衣服として位置づけている。３タイプとのクロス集計結果からは振袖派は振袖について「着ている人をみると裕福な感じがする」と評価し、ニューキモノ派はニューキモノについて「礼装用としてふさわしい」と評価するなどの関連がみられた。又、各々の晴れ着についての因子分析の結果、主要な因子として振袖で４因子、袴姿で５因子、ニューキモノで４因子浴衣で５因子が抽出された。それぞれの因子に高い因子負荷量からファッション性、機能性、伝統性、規範性などの基準で晴れ着を評価していることがわかった。